

雲の上は  
いつも晴れ

長倉 伯博



# 雲の上は いつも晴れ

もくじ

## 第1章

# 家族

のこと

▶04

悲観的な母に  
向き合えない

同居の両親との  
考え方に違い

宗教の違う父母、  
別々のお墓に？

見通せない将来、  
共働きでも不安

結婚話に反対し、  
娘と話せない

孤独死した父、  
募る後悔の念

子どもを手放し、  
後悔の念が募る

新婚当時の  
自分はどこへ

など

## 第2章

# 友人・知人

のこと

▶64

いつも私に幹事役を  
任せる友人たち

人が怖くて  
仕事が続かない

近所のお年寄りを  
放っておけない

デイサービスで  
いじめに遭う

私生活に口出す  
同僚を諭すべき？

結婚の二文字、  
口にしてくれないが……

など

## 第3章

# 自分

のこと

▶100

夏休みの宿題、  
やる気出ない

ストック品が  
ないと不安に

心ない言葉が  
本当につらい

敬老の心を持つ  
娘が涙した

死にどう  
向き合えば？

夢や経験もなく、  
就職活動に焦る私

など

## 第1章

# 家族 のこと

孤独死した父、暮る後悔の念

認知症の母にいら立つ父

悲観的な母に向き合えない

高齢の母を介護、言葉かけに悩む

母の言動がきつく、将来の介護が不安

父の頑固さにいら立つ私……

同居の両親との考え方に違い

悩みがちな性格で、娘夫婦との同居が不安

娘が作る料理の味付けが濃すぎる

子どもを手放し、後悔の念が募る

娘の養母との関係に違和感

仕事にやりがいがないと悩む息子

心疲れた息子をどうすれば

結婚話に反対し、娘と話せない

お嫁さんの親族との付き合い方

ドライな嫁に不快感

義理の両親との付き合いに悩み

夫婦二人きりの生活が不安

すぐ怒鳴る夫、みっともない

新婚当時の自分はどこへ

怠ける妻に嫌気、私は器が小さい？

見通せない将来、共働きでも不安

母の在宅介護に奮闘する妹が心配

同居の両親に甘える夫婦

私に厳しく、弟には甘い母

わが家の墓をどうすれば

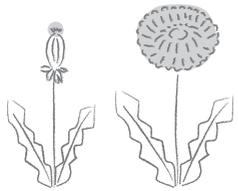
仏式か神式か、母の葬儀を悩む

宗教の違う父母、別々のお墓に？

死への備えについて話し合いたい

62 60 58 56 54 52 50 48 46 44 42 40

38 36 34 32 30 28 26 24 22 20 18 16 14 12 10 08 06



## 孤独死した父、募る後悔の念

病氣療養中だった父が、孤独死しました。週末のたびに家に立ち寄り、身の回りの世話をしていました。体調の悪化に気付けませんでした。最期を看取れなかったことに対し、いろいろな思いが頭の中を駆け巡り、今も後悔の念にかられています。さらに、気持ちが沈みきっていた通夜の席で、父と不仲だった親戚に「私は彼には嫌な思いしかない。だから変な死に方をしたんだ」と言われました。どのように気持ちを整理していいかわからず、ずっともやもやしています。

(四十代女性)

## お父さまが 今教えてくれていること



厳しくも切ない思いをされましたね。体調の悪化に気付かなかったという後悔は、人情としてわかります。ただ、娘の前で心配をかけまいと、元気なふりをなさっていたのかもしれないよ。

まだ、がんの告知を本人にはあまりなされなかつた頃、ある父親の葬儀後に発見された手帳に「皆に迷惑をかけないうちにお迎えがくるように」とか「夕日もまた太陽、いざ輝かん」などと記されていました。父親は、知っていたのです。

「こんなことなら、もっと話をしておけばよかった」

と家族は後悔するのですが、知らないふりをし

た父の優しさと強さを感じることもできたのです。

また、通夜の席での親戚の言葉は、腹いせとしか思えません。もっと言うと、反論できない死者への冒瀆ぼうとくですね。昨今、突然の事故や災害など、理不尽とも思える死の報道があります。被害者は皆、生き方の悪かった人でしょうか。決してそうではありませんよね。

お盆ぼんという仏事があります。今年、初盆はつぼんを迎えた本人は、昨年のお盆はこの世の人でした。残された者が悲しみの中で緩やかに再出発をしてほしいと願い、死者が生者に語りかけていることに耳を傾けたいものです。

あなたもいつかお父さまに再びあ遇う日が来ます。その時、「一所懸命に生きてきたね、私の命を無駄にしなかったね」と褒めてもらえるように生き抜くことこそ、お父さまの喜びでしょう。

## 認知症の母にいら立つ父

夫婦二人暮らしの七十代の母に、認知症の症状が出始めました。言われたことをすぐ忘れたり、同じことを何度も聞き直したり。食事などの日常生活には支障は出ていませんが、父はそんな母にイライラして、けんかが増えました。自分の妻が認知症になったという現実を受け止められないようです。娘の私が顔を出すなどして、二人の潤滑油になるよう努めているつもりですが、仕事が忙しく限界があります。これからが不安です。

(五十代女性)

## お父さまの 悲しみをくんで

少しお年を召されたご両親を見守るご苦労が垣間見えるような気がします。ご相談の内容以上に、いろいろと気疲れなさっているのではうね。他人事なら高齢化社会のもたらす当然の事情といえますが、現実の自分の身内のこととなると居直るわけにもいきません。

潤滑油になる努力をなさっていることにも敬意を表します。こんな場合は、あなたご自身が専門的に相談に乗ってくれる医療機関などを訪れて、現状の改善や今後の方向性について助言を受けることが必要でしょう。

その上で、お父さまのお気持ちを考えてみましょう。イライラや怒りが表れていらつしやいます。その心の奥には大きな悲しみがあると



は思えません。しつかり者のお母さまのお姿を忘れることができないのです。良き老後を夫婦で過ごすはずだったのに、思い通りにならないつらさや苦しさを、今味わっていらつしやるように思えます。

「お母さんの物忘れがひどくなってつらいよね、私もつらいよ」

とお父さんに寄り添ってみてはいかがでしょう。無理に夫婦仲を取り持っても、子が親にお説教するようなもので、かえって逆効果になってほしいのは、お父さまの方かもしれません。

ご両親の現在のお姿は、明日の私の姿に思えたりなりません。

長生きには喜びと悲しみがある、とは先人の言葉です。

